

UNIXサーバー版 バージョンアップ内容 (Ver.6.19R00 → Ver.6.19R01)

2006年3月31日
パナソニック ソリューションテクノロジー(株)

UNIXサーバー版が Ver.6.19R01 にバージョンアップされました。
変更内容は以下のとおりです。

製品情報	バージョン	Ver.6.19R01
	対応Webクライアント	GlobalFamily Webクライアント(Ver.4.00R15)

新機能

[ワークフロー]

呼び戻し通知メールを送付できるように改善しました。

[ツールキット]

tk_ruserで外部メール自動転送設定情報を抽出できるように対応しました。

tk_ucugで外部メール自動転送設定情報を設定できるように対応しました。

詳細は「GlobalFamily UNIX/Windowsサーバー側ツールキット(DB構築ツール)」をご参照ください。

機能強化

[リアルタイムウイルスチェック]

検索エンジン VSAPI 8.100 に対応しました。

不具合修正

[基本機能]

Global2.3、Global4を利用してユーザーを削除すると、グループ、テンプレート、プロセス管理者として設定されていた情報が削除されず、同じユーザーコードで再登録すると復活してしまう不具合を修正しました。

なお、この不具合はVer5.12R00以降発生します。

[メール]

グループを指定してメールを送信すると、メールの利用を休止されたユーザーに対しても、メールが送られる不具合を修正しました。

なお、この不具合はVer5.12R00以降発生します。

[ファイル]

文書を文書変換設定されたフォルダーへ複写/移動した場合に、文書変換対象のファイルが添付されていない文書でも文書変換が行われていた不具合を修正しました。

なお、この不具合はVer5.12R00以降発生します。

[スケジュール]

会議開催画面で「参加依頼メールを送る」をチェックし、メモに全角文字と半角文字を交互に記述して開催した場合に、参加依頼メールが送られない不具合を修正しました。

なお、この不具合はVer6.00R00以降発生します。

[ワークフロー]

否認(起案者への否認を除く)、呼戻し時に印影および遂行日時がリセットされない不具合を修正しました。

この不具合は以下の条件を全て満たす場合に発生していました。

- インスタンス名の長さが違って、短い側の名称と前方一致しているインスタンス(下記の例では、承認1と承認2が承認インスタンスの名称と前方一致)
- 名称が短い側のインスタンス(下記の例では、承認インスタンス)が先に(起案に近い位置に)指定されている

(例) 起案→承認→承認1→承認2・・・のようなプロセス構成のとき、承認1と承認2の印影および遂行日時がリセットされませんでした。

なお、この不具合はVer5.12R00以降発生します。

押印したユーザーの印影情報取得に失敗した場合に、ビューアーに含まれる帳票情報の印影表示位置以降が出力されない不具合を修正しました。

バージョンアップ後は、印影情報が取得できないときは、印影部分が×と表示されます。

印影情報の取得に失敗するケースとしては、以下のようなものがあります。

- 押印したユーザーが削除されている
- 押印情報を取得途中で印影が更新された
- ユーザーの再登録(削除→登録)により印影情報がなくなった

なお、この不具合はVer5.12R00以降発生します。

グループ進捗一覧から開いた書類の状態が、「処理中」または「保留中」となっていると、強制否認ができない不具合を修正しました。

なお、この不具合はVer6.12R01以降発生します。

グループ進捗一覧から開いた書類の状態が、「処理中」または「保留中」となっていると、督促メールの送信はできませんが、「メールの送信はできません」のエラ

ーメッセージがでた後、他の強制処理(強制遂行、強制完了、強制否認、強制削除)ができなくなる不具合を修正しました。

なお、この不具合はVer6.12R01以降発生します。

サーバー設定により「バックグラウンド遂行する」で運用されている場合に、通過しないルートの宛先に対して「宛先未設定です」のエラーとなり、書類を次に進められない不具合を修正しました。この現象は以下の条件を全て満足しているときに発生していました。

- 宛先未設定をスキップしない設定のテンプレートを使用して起案されている。
- 書類を遂行されたユーザーから次の宛先インスタンスまでにOR分離インスタンスが含まれている。
- OR分離後で、最初に登録されたルートの宛先が未設定状態。
- 最初に登録されたルートは、分離条件により実際には通過しないルート。

なお、この不具合はVer6.10R00以降発生します。

サーバー設定により「バックグラウンド遂行する」で運用されている場合に、通過しないルートの保存インスタンスに対して「保存できません」のエラーとなり、書類を次に進められない不具合を修正しました。この現象は以下の条件を全て満足しているときに発生していました。

- 宛先未設定をスキップしない設定のテンプレートを使用して起案されている。
- 書類を遂行されたユーザーから次の宛先インスタンスまでにOR分離インスタンスが含まれている。
- OR分離後で、最初に登録されたルートの保存先に、文書名重複や容量オーバーなどで文書の書き込みができない状態。
- 最初に登録されたルートは、分離条件により実際には通過しないルート。

なお、この不具合はVer6.10R00以降発生します。

[ツールキット]

tk_rcugで、データを抽出すると、関連のない情報を含んで出力されてしまう不具合を修正しました。

以下の条件を満たす場合に発生していました。

- グループを指定した制御情報ファイルを使用している
- 抽出オプションに -g, -fのいずれかを指定している
- メンバーと同じコードのグループが存在する

※関連のない情報とは、メンバーと同じコードのグループに所属するメンバー情報です。

-gオプション指定時は処理区分が0Aのレコードで、メンバーのユーザーコードと同じグループの情報

-fオプション指定時は処理区分が0Dのレコードで、メンバーのユーザーコードと同じグループの情報

なお、この不具合はVer5.12R00以降発生します。

tk_ucugで、0C区分を利用してユーザーを削除すると、グループ、テンプレート、プロセス管理者として設定されていた情報が削除されず、同じユーザーコードで再登録すると復活してしまう不具合を修正しました。
なお、この不具合はVer6.00R00以降発生します。

tk_stiniで、最後に表示されるエラーユーザー数が実際に発生したエラーユーザー数と一致しない不具合を修正しました。
なお、この不具合はVer6.18R00以降発生します。

tk_riniで、tk_stini形式抽出する場合、ユーザー設定ファイルの一番最後に定義された項目が、抽出できない不具合を修正しました。
抽出できない場合はブランクとして出力されていました。
なお、この不具合はVer6.18R00以降発生します。

[ユーティリティ]

ls_wloguで、まだ完了していない書類が抽出対象となると、処理が終了しない不具合を修正しました。
なお、この不具合はVer6.19R00で発生します。

注意事項

[ユーティリティ]

oracleのユーザー・パスワードをGLOBAL/GLOBAL以外で運用されている場合、up_saveで、「ORA-01017: invalid username/password; logon denied」のエラーが発生します。

オフィス業務システムとアンケートシステムの、データファイル抽出のユーザー・パスワードのデフォルト設定が、GLOBAL/GLOBAL となっているためです。回避するには以下のような変更が必要です。

- オフィス業務システム・アンケートシステムのデータファイル抽出を、同時に行う場合は、office_exp および enquete_exp 3~4行に記載されている以下の部分を、運用されているoracle接続ユーザー／パスワードに変更してください。

```
USER="GLOBAL" ← ユーザー  
PASS="GLOBAL" ← パスワード
```

- オフィス業務システム・アンケートシステムのデータファイル抽出を抑止する場合は、up_save 中に記述されている以下の部分を削除してください。

```
if [ $# -ge 0 ]; then  
    office_exp  
    ret=$?  
    if [ $ret -ne 0 ]; then  
        exit $ret  
    fi  
fi  
  
if [ $# -ge 0 ]; then
```

```
enquete_exp
ret=$?
if [ $ret -ne 0 ]; then
    exit $ret
fi
fi
```